



令和6年9月5日

研修だより 32号

訪問をおえて②

小笠原康晃

①の続きです。

5年生

主人公の心情を考える学習を参観しました。「心メーター」というアプリを活用し、主人公の揺れる心情を視覚化していました。その上で、なぜそう思ったのかを話し合っていました。子どもの考えを共有して、話し合うことが大切だと感じました。

3年生

紙を使った制作活動を参観しました。紙の置き方を変えたり、向きを変えたりすることで、イメージが異なることを、子どもたちは感じていました。友達の作品を前に提示することで、お互いに作品を見合う環境をつくっていたと思います。

参観が終わった後、次のような指導・助言をいただきました。

対話・協働を深めるために、袋井型の「?型」の質を上げることが大切ですね。

今年度研修で取り組んでいる「しかけ」は「課題」に関係することもあります。

十分な体験活動をする、子どもたちから課題が出てくることがあります。その課題を授業で解決することも、対話・協働場面がある学習や深い学びに繋がります。

「課題の質の向上」を目指すことは「しかけ」を工夫することにも繋がります。

1学期に取り組んだ授業研究では「対話・協働場面に繋がるしかけの設定」が課題として、取り上げられました。

「子どもたちが興味をもつようなしかけ」

「子どもたちの理解がすすむようなしかけ」

だけでなく、

「子どもたちの対話・協働場面に繋がるしかけ」

について、これからも研究していきたいと思います。